

2023 年 6 月 6 日
シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役
渋谷 健

第 19 回「新しい資本主義実現会議」コメント

新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2023 改定版の案をまとめた事務局など関係者のご尽力の敬意を示し、内容に賛同いたします。前記を踏まえ、今後のファローアップとして特に検討していただき事項を下記に示します。

1. 社会的課題解決を共助社会で実現させる資金フローを促す財団法人改正制度

◎社会的課題を解決する共助社会において多数多様な財団法人が存在していることは極めて重要である。ただ基金から生じる助成資金として社会へ十分と分配しない財団法人も多く、この「目詰まり」を是正する制度の議論を今後のファローアップとして検討すべき。

◎具体的には、公益財団法人および一般財団法人の基金の一定率(例えば年 5%)を社会的目標事業への拠出がなければ、公益財団法人、一般財団法人の理事会に説明責任を要求し、一定の期間(例えば 3 年間)を経ても改善されないようであれば、財団法人の資格を取り消すことの検討。

◎併せて、基金の資産運用を自由化して、長期的に年 5%の運用利回り以上を確保できれば基金が目減りしない制度設計も重要。リスクマネーの資本市場へ供給と社会的課題解決の好循環のエコシステムを促す。

2. 「スタートアップ」の定義に「金融スタートアップ」も含む議論・検討

◎新興運用会社、いわゆるエマージング・マネージャーは、スタートアップに新たな資金の供給の新陳代謝を高める重要な担い手になりえるが、このような「金融スタートアップ」も「スタートアップ育成 5 カ年計画」の対象として含まれることを今後の議論、検討をお願いしたい。

◎官民における公益性ある資金および金融機関が、「一号ファンド」に出資した案件数・金額を年次の情報開示の対象にすることを今後の議論、検討をお願いしたい。

3. 新しい資本主義における企業価値の定義を「インパクト」で深化させる

◎この1年で、利潤追求に加え環境(E)・社会(S)課題解決を意図とする「インパクト」を企業価値として可視化する関心が急速に高まったと実感している。これは、2022 年 6 月に決定された「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」でインパクトという概念が明記されたことが原因であり、海外からの注目も著しく高まっている。現在のモメンタムが劣れることないよう今後のファローアップの深化が重要。

◎ISSB(国際サステナビリティ基準審議会)の非財務情報開示の制度化と比べると「インパクト」の測定・目標設定は初期的であるが、明らかにサステナブルファイナンスの志向として併行に展開している世界的な流れであり、且つ、日本がフレームワーク構築に参画できるという意識を広めるべき。